

毎月勤労統計調査第2回部会からの継続確認事項への回答

1 新旧計数の接続

(1) ローテーション・サンプリングの導入後

ワーキンググループにおいては、ローテーション・サンプリングの導入を前提として新旧計数をそのまま接続させることが、「望ましい方法」とされている。

⇒

第一種事業所におけるローテーション・サンプリングの導入後においては、新旧計数をそのまま接続させ、遡及改定も行わない。

(2) 移行期間中

ローテーション・サンプリングの導入過程における移行期間中の取扱いについては、ワーキンググループで特段の言及はない。

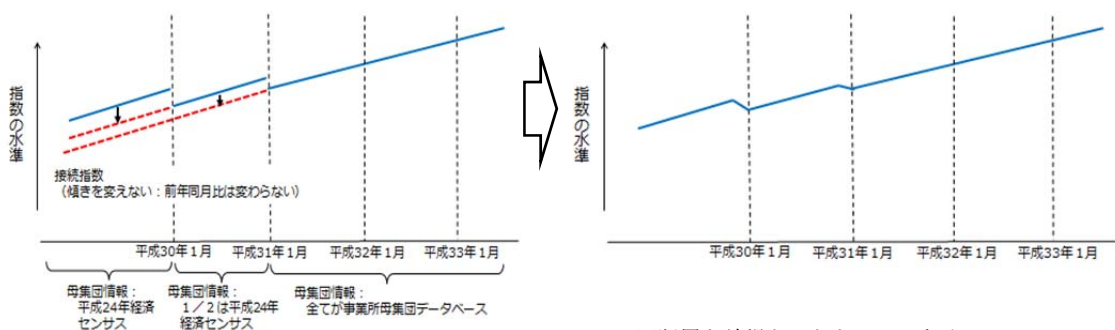
移行期間中である平成30年1月及び平成31年1月の部分入替は、母集団情報が、経済センサスから事業所母集団データベースに段階的に変更されるタイミングでもあり、その前後で結果数値にギャップが生じる可能性がある。

一方、移行期間中においても、ギャップの要因となる脱落事業所を抑制するよう最大限の配慮と努力をする予定で、これにより、ギャップが極力小さくなるよう努める所存。

⇒

移行期間中においても、ワーキンググループにおいて「望ましい方法」とされている方法に従って、新旧計数をそのまま接続させる。その際、利用者のわかりやすさやニーズに配慮しつつ、ギャップの有無・程度や見方等に関する情報も、併せて提供する。

平成30年及び平成31年1月入替え(経過措置)の際の指数の接続



※断層を前提としたものではなく、あくまでイメージ図です。

2 継続指数の作成

ワーキンググループにおいて、「望ましい方法」を補完するものとして、継続標本による参考値の作成を検討することが挙げられている。

⇒

平成 30 年 1 月分から、前年同月と共通の調査対象事業所のデータを用いて継続指数を参考値として作成する。